



2020年1月1日発行
日本発育発達学会 編
発売：(株)杏林書院

中心として～

正宣・寺井あすか

……… 植阪友理

……… 澤清二・中川正宣

……… 和嶋雄一郎

……… 大澤清二

……… 大澤崇人

……… 下田敦子

……… 高木誠一

連載

の世界44

子どもたちからみた
遊びの世界

板谷 厚

組成研究備忘録12

こ、恩師を振り返る

北川 薫

20年4月発行

身体活動の可能性

能性 征矢英昭

5動の可能性 野井真吾

題 田中千晶

試み 近藤智靖

は？ 石井香織

すぎの解消を

城所哲宏

フロン・トレーニング

荒木秀夫

ものは何か？ 内海裕美

Tel 03-3811-4887

Fax 03-3811-9148

巻頭のしつば

新型コロナウイルス (COVID-19) の知識と不安と意思決定

3月のはじめ、新型コロナウイルス感染がヨーロッパで顕在化し始めたころ、スペイン風邪はどのように終息したのだったろうかということが頭をよぎっていた。100年も前のことではあるが、スペイン風邪の歴史は気になるところである。精神科医師の友人・山下喜弘氏に教えてもらったところによると、スペイン風邪は、第一次世界大戦（1914年7月～1918年11月）の1918年1月から猛威を奮い始めた。第1波は1918年3月、第2波は1918年秋、そして第3波は1919年春から秋（1920年12月）までと長い期間であり、回を追うごとに悪化、長期化したという。当時の全世界人口は17億程度であったが、その3分の1が発症して、亡くなった人の数は5,000万人とも1億人ともいわれている。日本では、当時の人口が5,000万人で、39万人が亡くなったといわれている。このたび、岩波新書編集部ウェブサイトに掲載された藤原辰史氏の記事を拝読する機会があり、藤原氏は人文科学の専門家の立場で、スペイン風邪と新型コロナウイルスの異同を論じさまざまな提言をされていた（岩波新書編集部：B面の岩波新書。https://www.iwanamishinsho80.com：2020年4月6日現在）。この100年間で、世界人口は何倍にも増え、市民の移動は活発になった。衛生状態は世界全体としては格段によくなり、医療の進歩は目覚ましいばかりか加速化されているといっただろう。新型コロナウイルスは2週に1度くらいの頻度で変異しているという。その伝播も明らかになっている（Nextstrain。https://nextstrain.org：2020年4月6日現在）。治療薬の治験は始められる。ワクチンの開発には、だいぶ時間がかかるらしい。筆者自身、一市民としてその程度の情報は得ているものの、新型コロナウイルスに第2波、第3波がないといえるのかについて回答を持たない。知識がなく不確実性が高いとき、人々は不安になり、意思決定が困難になる。この局面は、基礎医学・生物学・薬学・公衆衛生学の研究者・生物統計家、人文科学者、経済学者などが力を合わせて、新たな問いへの解を究明し、出版社やマスコミが新しい知識を人々に正確に届け、臨床の医師・看護師、地域の保健師・訪問看護師・介護福祉士、保育士・教師・栄養士、政治家、製造業、商店、清掃業など、すべての市民・子どもたちが、その知識を使って意思決定し行動していくことによって乗り越えていくことができるのではないかと。

今号が発行されるころには、新しい知識が加わり、人々の不安が多少なりとも緩和されていることを願う。

東京大学大学院教授 上別府圭子